

## 高齢腹膜透析（PD）患者の認知症進行による HD 移行の問題

### - 導入時における説明の重要性

長崎腎病院

○岩永敦子 山中真樹子 丸山祐子 原田孝司 船越哲

#### 【背景・目的】

当院では過去7年間でPD患者34名のうち、PD継続を希望しながらも様々な事情のために20名が血液透析（HD）へ移行している。その中で、認知症が理由でHDへ移行した3症例における問題点について検討した。

#### 【事例】

事例1：息子夫婦のサポートは得られていたが、認知症進行のためにPDカテーテルの自己抜去、腹膜炎にて入退院を繰り返しHDへ移行した。

事例2：自己管理可能であった患者が脳梗塞発症後の入院で認知症を併発し、施設でのPD継続が困難となりHDへ移行した。事例3：妻のサポートを受けていたが介護負担が大きくなり、その後息子夫婦の協力で継続していたが、認知症の進行のためHDへ移行した。

#### 【考察】

PD患者が認知症を発症しても、家族支援や適切な時期の社会資源活用で継続が可能となる場合もあるが、在宅での継続は現実には極めて困難である。また、認知症PD患者を受け入れる入所施設はほとんどない。高齢者にとってPDの有用性は大きいものの、まず透析導入の時点で将来予測される具体的な困難さを十分に家族に告げ、PDを選択した場合でもHDに移行せねばならない状況についてアドバイスが必要と考える。